

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193100526		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホームとうま		
所在地	上川郡当麻町宇園別2区		
自己評価作成日	令和4年8月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193100526-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雄大な大雪山連峰や四季おりおりの景色を眺めながらゆったりと生活することができます。道の駅やホームセンター、ツルハがあり皆さんが来所しやすい立地環境です。また、隣接しているオレンジカフェの花畑や、ホームの裏の畑では野菜やイチゴを作っており収穫を楽しみ皆さんでおいしくいただいています。理念である「のびのび、にこにこ、暖かく」「ゆっくり、いっしょに、たのしく」「長寿喜楽、敬老奉仕」を大切に、「グループホーム介護20か条」を常に念頭に置き、利用者さんがゆっくりいっしょにたのしく過ごしていただけるホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は国道39号に近く、隣接してホームセンターや道の駅、コンビニがあり買い物等生活の利便性も良く、田園に囲まれ実りの秋には黄金色の稲穂と大雪山連峰を望み自然環境にも恵まれている。また、当麻町は「鍾乳洞」「でんすけすいか」等でも知られている。木造平屋建ての事業所と渡り廊下で小規模多機能施設が併設されており、利用者同士の交流もある。また、建物正面の横にはオレンジカフェの施設があり、役場の受託事業等で介護予防教室等の開催や各種会議・催し等、避難場所としても活用している。また、広大な前庭には、色取り取りに季節の花が植えられ憩いの場にもなっている。恵まれた環境の中で職員も明るく「長寿喜楽・敬老奉仕等」の理念を遵守し、特質すべきは「介護二十か条」を共有して、心に寄り添う尊厳を大切にしたいチームケアに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護が必要になっても住み慣れた地域で過ごすことができるように支援させていただき、職員は理念を共有し、実践につなげています。	玄関正面の見やすい位置に理念が掲示されている。その他、共用居間、事務室には20か条の細かな心配り等も並列に掲げられミーティング時に皆で唱和、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの状況の中、地域の小学校とは手作りのクリスマスケーキを届けたり、ビデオメッセージをいただく等の交流を続けています。	周りが田園地帯のため、農家との交流が深く、季節の野菜等の差入れが多くある。また、宇園別小学校との世代間交流は、今も、ビデオ等を利用して続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェにおいて、町主催の「認知症予防教室」を開いたり、地域の方の交流の場として提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き、利用者の状況の報告や意見交換をさせて頂き、サービス向上に活かしています。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催されている。会議では利用状況・暮らしぶり等の報告等を中心に話し合い、改善や今後の取り組みの向上に役立てている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報を頂きながらサービスに活用し、地域ケア会議に参加しとうまの状況も発信しています。	オレンジカフェを運営しているため、町から委託されている介護予防教室等を開催したり、また、運営推進会議では福祉課のセンター長が参加する等、日頃から役場の担当職員と円滑で良好な連携を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に関き、身体拘束をしない介護に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を3ヵ月毎に開催している。スピーチロックなど実際のケア面で「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、職員間で話し合いながら介護に取り組んでいる。防犯や安全確保のため夜間のみ玄関施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の介護や声掛けが虐待につながっていないか、話し合いの場を設け、防止に努めています。		

グループホームとうま

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はいませんが必要なときは円滑に対応できるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明以外にも、面会時やその他機会あるごとに十分な説明をさせていただき、ご理解いただけるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の意見、要望を詳しくお聞きし取り入れていけるよう取り組んでいます。	利用者とは日々接する生活の会話の中で意見や要望等を聞き取り、また、家族等とは電話で利用者の状況を報告しながら意見等を確認している。得られた報告等を基に運営等に反映しながら取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談を行うなどして状況の把握を行い、職場環境の向上に活かしています。	職員との面談は、納涼祭が終了して一段落した9月頃から実施している。全体会議・送り等でも協議し、職員の意見や提案を聞く等して職場環境やサービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持って働けるよう環境整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため内部研修で勉強会を行い介護力の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため実際の交流はできていないが、媒体等を通じて可能な限り情報を得て質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ご本人及びご家族からお話をうかがい、ご本人の状況を把握し少しでも早く信頼関係を築けるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談時、細部にわたり話し合いを行い信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する前にご家族と面談し、ご本人やご家族の希望に添った支援が出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念をもとに共に生活する意識を持って支援し、お互いが協力し合いながら楽しく生活出来るよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力を得ながらご本人とご家族の絆を大切に、支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	可能なときは友人が訪問しゆっくりと過ごしている。ただけよう支援していますが、コロナ禍のため現在は制限させて頂いております。	面談や宿泊等、馴染みの関係が途切れないうよう支援しているが、コロナ禍では感染予防のため、玄関先や窓越しでの面談を余儀なくされている。また、衛生等を保つため、馴染みの理美容は2か月毎に来訪がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係を把握し、皆で関わり合えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご本人、ご家族との関係を大切にしながら、相談等があれば応じ、関係は続いています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向、ご家族からの情報など日々の関わりの中で希望や意向を汲み取るよう努力しています。	日常の暮らしの中で個々の考えや思いに寄り添って暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、聞いた内容等は職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のご本人の生活歴を把握しケアに活かせるよう対応しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや申し送りの中で、心身の状態など現状を把握し、職員で情報交換を行っています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行いミーティングで話し合い3ヶ月ごとにモニタリングをし、ご家族に意見を聞きながら介護計画を作成しています。	利用者や家族から希望などを把握し、職員で毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、3か月毎に介護計画を見直し、利用者や家族等の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を活かしながら、経過報告、モニタリングを行い、介護計画の見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族の思いにお応えできるよう柔軟な支援を心がけています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流や心豊かな生活が出来るよう努めています。 避難訓練や救命講習など消防の協力を得ながら安心して暮らしていただけるよう支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望にあった医療機関への受診を支援しています。受診時は付き添いさせていただき、結果はその都度ご家族に報告しています。	希望に添った医療機関へ受診するよう支援をしている。職員が同行し、時には家族等の付き添いもある。病状等は電話でその都度家族等に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で体調の変化等を看護師に相談し、医療的な処置が必要であれば受診出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報交換や連携を行い、安心して治療が出来るよう、また早期に退院が出来るよう病院関係者との関係作りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期のあり方について説明させていただいています。入院などの状況の変化に応じ、こちらでできることをお伝えしています。	重度化と終末期の支援については、指針が策定されており、入居時に明示している。重度化した場合は、家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	医療機関との密接な連携を図り、且つ役場等関係機関と話し合いを重ねながら、利用者と家族が不安なく重度化や終末期を迎えられるようターミナルケア支援体制の構築に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の救命講習と避難訓練に加えて、毎月の内部研修で実践力を磨いています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と毎月の内部研修を利用して、利用者が安全に避難できる方法を訓練しています。また、地域との協力体制も築いています。	避難訓練は4月と10月予定の年2回、夜間を想定して訓練をしている。コロナ禍のため事業所のみで行うが、近くの建設業者と災害協定を結び強固な協力体制を築いている。また、AEDの救命救急講習会を受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、思いやりのある声掛けをしています。	職員は利用者の個々の人格や意思を尊重して、傾聴することを大切にしている。介助時や声掛け時は、小さな声で呼びかけたり、周囲の人に聞かれても嫌に思われないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を引き出せるような声掛けを行い、自己決定していただけるような声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、希望に添って過ごしていただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選択出来る方はご本人の選択を尊重し、出来ない方はともに確認しながら選んでいただいています。		

グループホームとうま

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てた野菜を収穫し、一緒に調理をしたり食事を楽しみ、後かたづけをしています。	利用者は職員と協力して、個々の力に応じた野菜の皮むき(芋・トウキビ等)等の支度をして一緒に食事を楽しみ、食器の片付け等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った量や栄養を考えた食事を提供し、水分もお好みに添ったものを摂っていただいています。一日の摂取量を明確に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に緑茶でうがいをし、食後の口腔ケアで口腔内の清潔の保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入し、排泄のリズムを把握し出来る限りトイレでの排泄になるよう支援しています。	排泄チェック表等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導して出来るだけトイレでの排泄を促している。下着や衛生用品の使用は随時検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜料理を多く取り入れ、水分を十分に摂っていただき、また適度な運動を行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き体調をみながら、ゆっくりと入っていただけるよう支援しています。	基本的に入浴支援は週2回となっている。浴槽は左右より二人介助しやすいようになっている。利用者の状態により、シャワー浴や足浴・部分清拭での対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調にあわせてレクリエーションや生活リハビリを行い、夜間の良眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の変化を見守り、主治医と相談をしながら服薬を最小限にできるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が役に立っているとの思いを持っていただけるように支援しています。気分転換に庭の花畑を散策するなどしています。		

グループホームとうま

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により制限はありますが、予防対策を十分にとり、ドライブやお花見等の支援をしています。	コロナ禍のため、買い物・外食等に制限がある。気分転換を図るため、マスク・手洗い等の感染対策により、景観を見るだけの流しドライブや恒例の花見等は利用者限定で行い、出前寿司の昼食等も場所を変えて支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されるときにお電話をかけたり、手紙や年賀状のやりとりもされてます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大雪山や田んぼの景色が窓から見え、季節の移り変わりを感じられます。 皆さんで音楽を聴いたりテレビを観たりくつろいでいただけるよう、居心地の良い空間作りに努めています。	玄関と廊下は車椅子がすれ違うにも十分な広さがある。共用居間は吹き抜けで梁と柱が木のぬくもり感を醸し出している。南面の排煙窓から程よい日差しも入り採光も良い。床暖房が敷設され、壁には皆で創作のちぎり絵等の作品が飾られ居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で過ごせるソファの他に、個々にゆっくりとくつろげる場所を設け居心地の良い環境を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物を持ち込んだり、飾ったりと過ごしやすい居室作りのお手伝いをさせていただいています。	居室は約8畳間、その中にベッド・洗面台・クローゼットがある。タンスや仏壇等、思い入れのある物を自由に持ち込んで我が家と同様に居心地よく暮らすことが出来る。パネルヒーターで適切な室温が保たれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることはしていただきながら、出来ないことでもお手伝いをさせていただきながら、安全に自立された生活ができるよう支援しています。		